

平成 23 年東北地方太平洋沖地震による北海道沿岸の港湾・漁港等被害調査速報

2011 年 3 月 18 日  
寒冷沿岸域チーム  
水産土木チーム  
道南・道央・道東支所

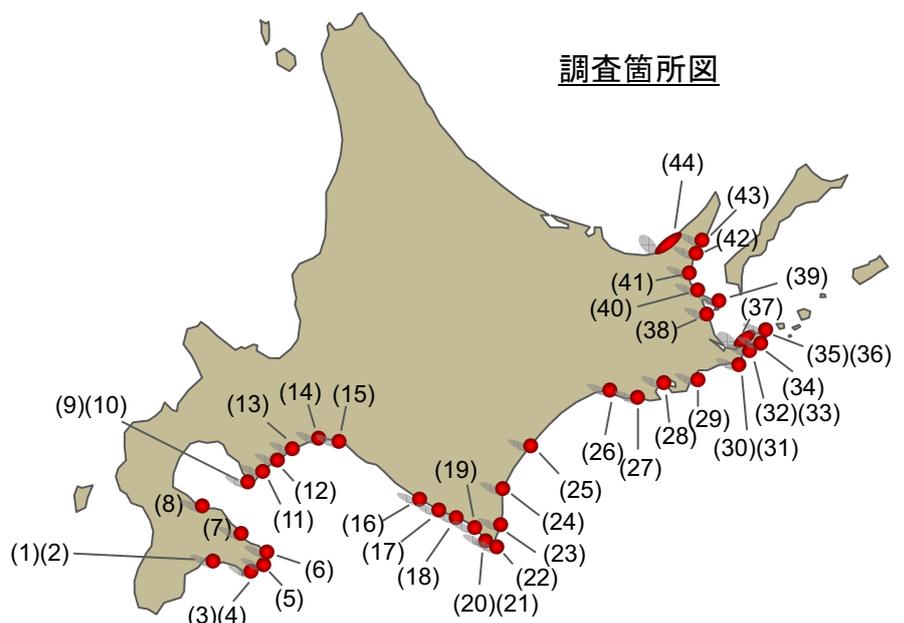
1. 調査日程

寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム並びに関係支所では、3月13日～16日に、函館港から羅臼漁港にかけて、北海道の太平洋側を中心に港湾・漁港の被害状況調査を実施しました。

調査日	調査地域	調査箇所	備考
3月14日	渡島地方	函館港、函館漁港、汐首漁港、戸井漁港、山背泊漁港、榎法華港、臼尻漁港、森港	
3月13日	胆振地方	室蘭港、追直漁港、鷲別漁港、登別漁港、白老港、苫小牧港西港区	
3月13日	日高地方	苫小牧港東港区、三石漁港、浦河港、様似漁港、えりも港、庶野漁港	北海道開発局・室蘭工業大学との合同調査
3月15日	日高地方	歌別漁港、東洋漁港、えりも岬漁港、庶野漁港	室蘭工業大学との合同調査
3月13日	十勝地方	十勝港、大津漁港	北海道開発局・北海道工業大学との合同調査
3月13～14日	釧路地方	釧路港、昆布森漁港、厚岸漁港、霧多布港	
3月14～16日	根室地方	根室港(根室港区・花咲港区)、落石漁港(落石地区・浜松地区)、昆布盛漁港、友知漁港、沖根婦漁港、齒舞漁港(齒舞地区、温根元地区)、納沙布岬、尾岱沼漁港、野付崎、標津漁港、薫別漁港、羅臼漁港、斜里海岸	

2. 施設被害、津波状況の概要

調査は図に示した 44 地点を対象に実施しました。地震動による被害は確認されず、被害は津波によるものと考えられます。函館港から苫小牧港にかけての港湾・漁港施設は無被害あるいは軽微な被害でしたが、浦河港から根室半島にかけてはブロックの移動、堤防の損壊、舗装の損傷などの被害が確認されました。防潮堤の鋼製ゲートの破損があった箇所もあり、津波対策について課題が残りました。また、岸壁に近い倉庫や建屋はシャッター等の破壊、内部の浸水が確認され、そのほか上架中の漁船の横転、漂流、係留船の沈没、港外流出が多数ありました。根室半島では、海域に残っていた流氷の打ち上げが確認されました。津波の痕跡は、地盤からの高さを計測しましたが、数値は速報値であり、今後変更されることがあります。



[1] 函館港

- 津波浸水痕跡は函館市内で地盤から 1.2m 程度 [1] [2] [3]
- フェンスおよびシャッターの損傷 [4] [5]
- 歩道の陥没 [6]



## (2) 函館漁港

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず [1] [2]

[1] 函館漁港港内



[2]



## (3) 汐首漁港

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず
- 約1tの漁船1隻が津波により転覆した模様(近隣の小安漁港では2隻が転覆)
- 津波来襲時には、港内では渦が発生(漁業者に聞き取り)
- 岸壁天端まで浸水(漁業者に聞き取り) [1] [2]

[1]



[2]



## (4) 戸井漁港

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず
- 施設や船舶の被害無し(漁業者に聞き取り)
- 岸壁の一部を津波が遡上、浸水深は 10cm 程度。(漁業者に聞き取り) [1] [2]

[1]





**(5) 山背泊漁港**

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず
- 施設や船舶の被害無し(漁業者に聞き取り)
- 岸壁の一部を津波が遡上、浸水深は 10cm 程度。(漁業者に聞き取り) [1]



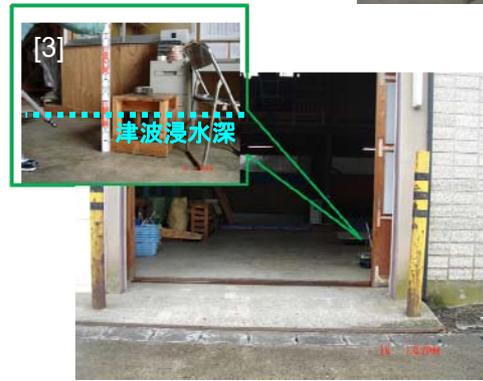
**(6) 椴法華港**

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず
- 施設や船舶の被害無し(漁業者に聞き取り)
- 岸壁の一部を津波が遡上、浸水深は 10cm 程度。(漁業者に聞き取り) [1]



(7) 臼尻漁港

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず [1]
- 施設や船舶の被害無し(漁業者に聞き取り)[1]
- 港内 30cm 程度浸水(漁業者に聞き取り) [2]
- 岸壁背後の上屋内に 30cm 程度の浸水(漁業者に聞き取り) [3]



(8) 森港

- 津波浸水痕跡および施設被害は確認されず [1]
- 自動販売機が津波の浸水により故障。(漁業者に聞き取り) [1]



(9) 室蘭港

• 目視では津波の痕跡は確認できなかった [1][2][3][4]



(10) 追直漁港

• 目視では津波の痕跡は確認できなかった [1][2]



(11) 鷺別漁港

- 目視では津波の痕跡は確認できなかった [1][2]



(12) 登別漁港

- 小型船冠水2隻、転覆1隻、流出1隻(海保により回収済み)
- 電気リフト2台浸水、漁具等が流出(既に回収済みで痕跡は見られなかった)



(13) 白老港

- 目視では津波の痕跡は確認できなかった。 [1][2]



(14) 苫小牧港(西港区)

- コンテナが道路まで流されていた [1][2]
- エプロン部に土砂が流出した痕跡あり [3]
- 工事用の手すりが港内へ落下した痕跡あり [4]



(15) 苫小牧(東港区)

- 目視では大きな港湾施設の被害は確認できず
- ガードレールに海藻等付着あり
- 残雪に一定の高さのゴミ付着の痕跡あり(地盤から0.5m程度) [1]



(16) 三石漁港

- 目視では漁港施設の被害は確認できず [1][2]
- 津波の痕跡は確認できず。聞き取りでも係留施設等への浸水はなかった模様

[1]



[2]



(17) 浦河港

- 防風施設分電盤浸水。船舶給水施設冠水によりドア破損 [1]
- 漁協倉庫破損、床下浸水倉庫1棟、床上浸水倉庫3棟・事務所1棟(聞き取り)
- 漁船沈没1隻、転覆2隻、上架から落下2隻(聞き取り)
- 中央埠頭から車両流出(聞き取り)。プレジャーボートが用地に乗り上げ
- 多数の流木等が回収されていた
- 陸側の事務所の壁に津波の痕跡あり(地盤から0.7m程度) [2]

[1]



[2]



(18) 様似漁港

- 臨港道路舗装のめくれ [1]
- 港内に漁船沈没 1 隻。施設への浸水多数あり(聞き取り)
- 屋根付き岸壁の高さの半分まで浸水(聞き取り)。痕跡はごくわずかで、砂の付着あり [2]
- 中央埠頭から車両流出、コンテナ3個流出(聞き取り)
- 車両が十数台港内に沈んだ模様(聞き取り)



(19) えりも港

- 津波スクリーン背後の縁石、法面土砂流出
- 岸壁に落下した車は回収された(聞き取り)
- 船揚場の照明分電盤柱が転倒。リフト式船揚場設備が浸水により故障(聞き取り)
- 漁港背後集落のシャッター損壊(地盤から 1m 程度) [1]
- 津波スクリーンの下端横ワイヤーに海藻付着。スクリーンが、漁船の流出を防いだ形跡あり [2]



(20) 歌別漁港

- 公衆トイレへの土砂の流入 [1]
- 公衆トイレのドアの損傷 [2]



(21) 東洋漁港

- 円筒形の架台上に位置していたコンテナ倉庫が転倒 [1]



(22) えりも岬漁港

- 漁港背後にある干場の縁石の損壊と砂利の流出 [1]
- 漁港背後にある家屋盛土の決壊 [2]



### (23) 庶野漁港

- 西護岸の L 型擁壁の移動、傾斜(全体延長の 2/3 程度)。前面の歩道舗装の剥がれ [1]
- 護岸と擁壁との間の割石(直径 30cm 程度)が道路上に 30 個ほど散乱 [2]
- 数箇所道路および歩道舗装の剥がれ。護岸背後道路のめくれあがり、段差 [3][4]
- 港内で漁船1隻沈没(聞き取り)
- リフト式漁船上架施設が浸水により故障(聞き取り)
- 漁船上架施設の駆動小屋の屋根付近まで津波遡上(現地津波写真より)



### (24) 十勝港

- 港内の埠頭及び外港地区の一部で舗装部の剥がれ、路盤の流出 [1]
- 港奥部の船揚場背後用地に上架中の多数の漁船横転(15 隻程度) [2]
- 岸壁背後に位置する倉庫等のシャッターの破損
- 津波スクリーンより 1 隻の漁船の流出が防止された(聞き取り)
- 漁船の転覆、港外流出あり(聞き取り)
- 港奥部津波スクリーン支柱に津波の痕跡あり(地盤から 2.3m 程度) [3]
- 第 3 埠頭先端部のフェンスに津波の痕跡あり(地盤から 0.75m 程度) [4]

[1]



[2]



[3]



[4]



**(25) 大津漁港**

- 目視では係留施設の本体の被害は確認できなかった
- 新港地区岸壁背後の防風雪施設のシャッターの破損、電気配線の浸水
- 港奥部の船揚場背後用地に上架中の漁船が多数転倒(20 隻程度) [1]
- 漁船の転覆、港外流出あり(聞き取り)
- プレハブ建屋(直売所)が 200m 程度流されて移動 [2]。トレーラコンテナ部の横転
- 船揚場付近の漁船修理施設の浸水。岸壁付近の建屋のシャッターの破損 [3]
- 公衆トイレの建物に津波の痕跡あり(地盤から 1.8m 程度) [4]
- 岸壁背後道路の隣接部分の残雪に津波の痕跡あり(地盤から 1.5m 程度) [5]
- 新港地区岸壁背後の防風雪施設に津波の痕跡あり(地盤から 2.0m 程度) [6]

[1]



[2]





(26) 釧路港(東港区)

- 入舟地区付近の津波スクリーン [1]。補足物は確認できなかった
- 同地区背後の民間施設に浸水あり。岸壁から約50mの位置で、自動販売機や車数台が水没により故障。雪山の痕跡は、地盤から約1.0m [2]
- 岸壁から約300mまで浸水。シルト系の細かい砂が大量に流入(聞き取り)
- 背後地(岸壁より約100m)民間施設浸水(地盤上約0.5m)。シャッター等破損 [3]
- 道路脇に堆積された除雪の雪塊が漂流。コンテナや木材などが港内に漂流した。(聞き取り)
- 副港地区にて、漂流したと思われる軽乗用車が津波漂流物対策施設に捕捉されていた [4]
- 荷さばき施設内の大型容器がくずれる [5]。岸壁背後に、ドラム缶などが散乱 [6]





(27) 昆布森漁港

- 漁協建物の津波痕跡は地盤から約 1.2m [1]。夜中 12 時まで水は引かなかった。
- 漁協内机まで浸水、漂流物多数、車 1 台が流された。(漁協で聞き取り)



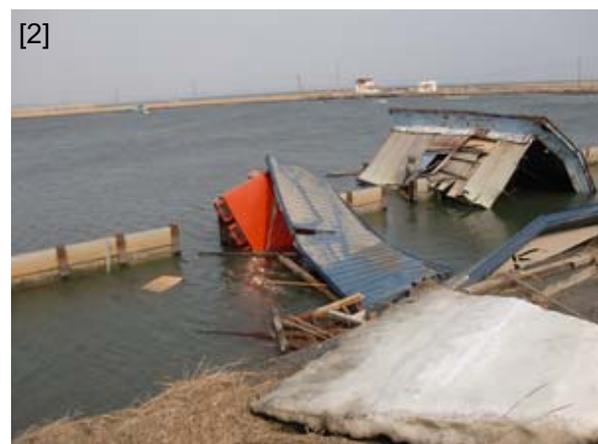
(28) 厚岸漁港(湖南地区)

- 湖南地区の津波痕跡は地盤から約 1.2m [1]
- 背後地の民間施設のシャッターが破損し [2]、フォークリフト数台が水没により故障した(聞き取り)
- 消防本部付近までプレハブが流されていた。(聞き取り)



(29) 霧多布港

- 浜中湾西側暮帰別東地区付近一帯水没 [1]
- 同地区にて、車、漁船(多数)、プレハブ小屋、結氷板等が漂流 [2][3]
- 霧多布港(本港地区)東側-5m 岸壁直背後の荷捌き施設内の痕跡は、地盤上約 1.2m。同施設シャッター破損 [4]
- 潮見橋脇の堤防崩壊 [5]
- 琵琶瀬湾側、車及び小型船が水没 [6]
- 潮見橋付近の電柱の、地盤上約 1.5m の位置に枯草が残っていた [7]
- 同地区付近で、街灯損傷 [8]
- 一部道路の路肩が崩壊 [9]





### (30) 落石漁港(落石地区)

- 漁港北側海岸堤防の一部が損壊(今回破損したのかは不明) [1]
- 船揚場近くの北護岸上部工が破損 [2]
- 船揚場より約 100m 陸側で、積雪についての痕跡は地盤から約 0.7m [3]
- 上架中の比較的大型の漁船はあまり流されていない(架台が高いためと思われる)(聞き取り)
- 高い架台に置かれていなかった漁船は、午後 7 時半頃の津波第 2 波で流された(聞き取り)
- ウニのカゴが 150 以上被害、沖まで流され、一塊となっていた。(聞き取り)[4]
- 浜松地区では、被害は確認できなかった



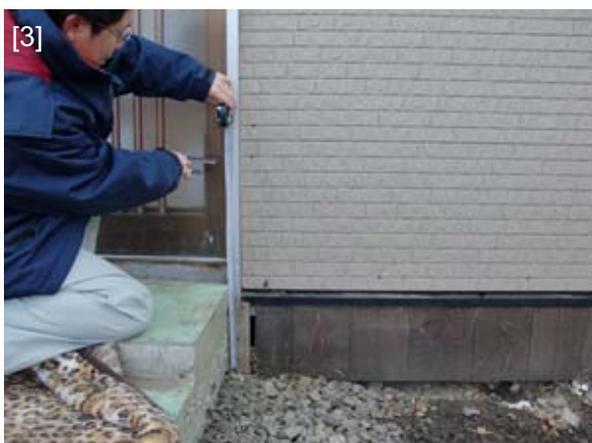
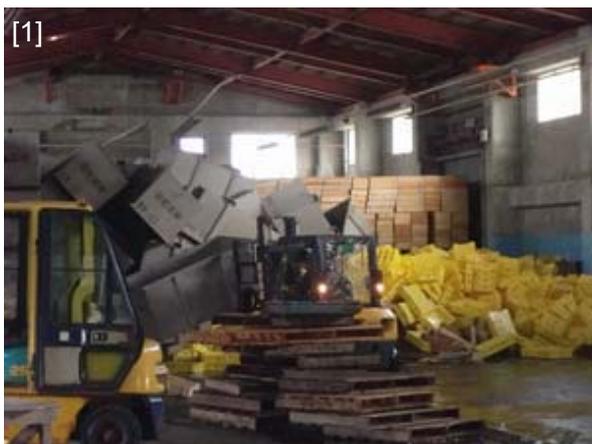
### (31) 昆布盛漁港

- 物揚場背後の積雪についての痕跡は地盤から約 0.5m
- 擁壁が高く、間口が狭いためか、被害なし。(聞き込み)[1]



(32) 根室港(花咲港区)

- 港の東側にて、漁協の荷さばき施設の前後のシャッターを突き破り、背後地へ流入。民間家屋にも浸水被害があった。高さが 1.6m の防潮堤を津波が越流し、防潮堤背後のコンテナも流された。(聞き取り)[1][2]
- 防潮堤より陸側 50～100m 付近で地盤から約 0.7m の位置に津波の痕跡あり [3]
- 上架中の漁船が 50～100m 流された(聞き取り)
- 漁連油槽所(タンク)に漂流した漁船が迫る(擁壁により事故を回避か)[4]
- 歯舞漁協花咲事務所にて、シャッター破損、3000 個のパレットも流出(ほぼ回収済)、高電圧電源装置破損、パレット洗浄用の大型の鋼製箱が海へ流出、50kg～100kg ほどの重量のある秤が漂流した(聞き取り)[5][6]
- 倉庫の外壁が破損 [7]
- 花咲水産物地方荷さばき施設では、津波が防潮堤を越え施設内の前後のシャッターを貫通。
- 防潮堤の鋼製門扉が2つ破損。さらに、施設内のコンテナが約 800 個流出し、輸入ウニやスケトウダラも被害を受けた(聞き取り)[8][9]
- 船揚場付近防潮堤の鋼製門扉も1つ破損 [10]
- 船揚場から約 100m 陸側(防潮堤の海側)で、建屋に約 1.0m の痕跡 [11]



[5]



[6]



[7]



[8]



[9]



[10]



[11]



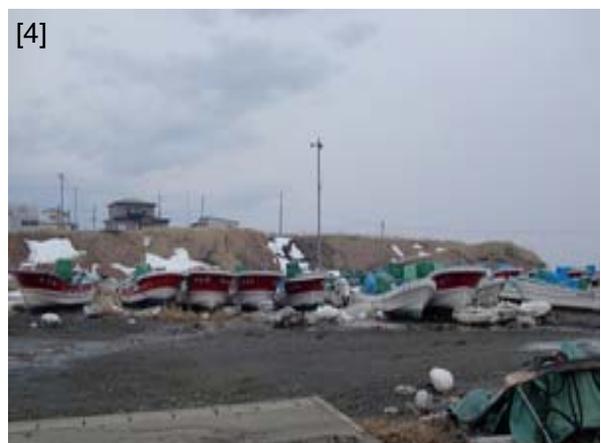
(33) 友知漁港付近

- 西側防潮堤において津波が越流(付近住民聞き取り)。防潮堤付近に木材や漂流物が散乱(越流した痕跡あり)。[1]
- 友知漁港内からも集落に津波が回り込んできた(付近住民聞き取り)。
- 防潮堤前面の砂浜に流氷。この流氷は津波によって遡上したとのこと。(聞き取り)[2]



(34) 沖根婦漁港

- 数は多くないが、流氷が岸壁上へ遡上。船揚場から遡上したものと思われる。(今年の流氷は、太平洋側にも回り込んでいた)[1][2][3][4]
- 上架中の漁船の一部が漂流し船同士で衝突した模様(聞き取りできず)[2][3][4]



(35) 納沙布岬

- 当時流水が一部存在していたが、津波来襲後に拡散し、消失していった(聞き取り)[1]



(36) 歯舞漁港(温根元地区)

- 港内結氷盤は存在したが、岸壁には遡上していない。特に変わった様子なし。[1]
- 港内にて、数十 cm の潮位変動はあったが、被害はない。(聞き取り)



(37) 道道 35 号線の海岸付近(温根元～根室港)

- トーサムポロ沼では津波前、流水が沼内に流入していたようだが、津波来襲後は流出(聞き取り)[1]
- 海岸付近では津波痕跡が確認できないが、流水は海岸に遡上(津波による影響かは不明)[2]
- 根室港(根室地区)では特に被害なし



(38) 尾岱沼漁港

- 野付湾や漁港内には若干流水が入り込んでいたが、特に被害無し。[1]



(39) 野付崎(フラワロード沿い)

- 特に津波の痕跡は確認できず(海岸に流水が遡上→津波による影響かは不明)[1][2]
- 野付半島ネイチャーセンターに聞き込み、被害など特筆すべき事象はなし。



(40) 標津漁港

- 岸壁が一時冠水したが、被害はない。(聞き込み)
- 積雪についた痕跡より、岸壁上約 0.25m 浸水を確認 [1]



(41) 薫別漁港

- 被害なし、岸壁ぎりぎりまで潮位が上昇(聞き込み)

(42) 国道 355 号線(国後国道)の海岸

- 特に津波の痕跡は確認できず(海岸に流氷が遡上→津波による影響は不明)

(43) 羅臼漁港

- 0.5m 程度の潮位変動は見られたが、浸水(越流)せず、被害なし。(聞き取り)

(44) ウトロ～斜里までの海岸

- 痕跡や変わった様子などは確認できず